

令和 4 年度の取組の報告

部会名	産業の担い手づくり部会
部会の目的 (方向性)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を早期（中学生まで対象を拡大）から実施し、それまであまり知らなかった市内の「企業を知る」ことや「しごと」について触れることで、将来地元で頑張りたいとする動機づけになる取組を行う。 ・また、学生等へのアプローチや既存事業所等の後継者育成、事業継承・発展への取組を支援する。
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生 ・高校生 ・大学生、社会人など青年
令和 4 年度 進捗状況・ 前年度から の改善点 ※実績数値 が分かるよ うに記載。	<p>産業支援センター</p> <p>○新入社員の定着を目的とした研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Masuda no Douki 研修（新入社員のつながりづくり） 第 1 回 [5/27 開催 参加者 20 名（企業 10 社）] 第 2 回 [9/9 開催 参加者 17 名（企業 12 社）] →改善：終了後に企業訪問を行い、状況報告を行なった。 <p>○企業の魅力・採用力向上を目的とした支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業採用力 UP 個別サポート 7 社 →改善：一律の支援ではなく、重点支援事業者を選定して、フォローアップも含め、集中的に支援をした。 <p>○松江高専との連携による理数系人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の工作教室 5 教室 参加者のべ 26 人 ・高専見学会等 12 名（内保護者 6 名） ・高専生との意見交換 15 名（本市出身者） ・秋の工作教室 4 教室 参加者のべ 12 人 ・市内企業との交流会 8 社（のべ 12 名）参加 <p>○益田市版「ツナガル」事業（インターンシッププログラム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップサポート 8 社 ・市役所インターンシップ受入 2 名 <p>農林水産課</p> <p>○学校給食における地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食と農の重要性を学び、未来の担い手につなげる「ますだ食と農プロジェクト」（ますだ食と農の基本計画推進事業） ・学校給食の地産地消率が低いが使用率、及び汎用性が高い作物で、土壌、栽培効率、施設等総合的に勘案し「玉ねぎ、じゃがいも、人参」を推奨作物とし、栽培、提供を促す。 ・翔陽高校が栽培する島根県版 G A P 「美味しまね認証ゴールド」を取得した米を学校給食へ提供。小学校 2、中学校 1 と一緒に田植、稲刈実施。 [6 月田植、10 月稲刈、11 月提供（給食便り、高校生による給食時授業）] →改善：昨年は提供、今年度は小中学生が栽培に参加。

○市民の食と農に対する理解促進

- ・益田の農や地域を支える担い手づくり（ますだ食と農の基本計画推進事業）
- ・ケーブルテレビを活用した農業番組の放送
「はじめての菜園生活」翔陽高校を舞台とした市民向け栽培講習、農の楽しさ、農業情報発信。
→改善：先生+生徒だけではなく、高校生栽培チームによる情報発信
- ・市内小学生の校外学習による農地、施設見学
西部農地開発地にて、高津川第1揚水施設、堆肥センター、ぶどうハウスを見学し、益田の特産品（ぶどう）と水、土が密接にかかわりあうことを学ぶ。収穫体験あり。 [9/29 実施 吉田小学校3年生 100名]
- ・多面的機能維持活動地元組織と翔陽高校の連携
翔陽高校生物環境工学科土木コースと地元組織の協働活動に加え、高校生が下の世代（中学生）や他校の高校生に農業土木の重要性を伝える取り組みを実施。 [中西中2年 7/4座学 9/20体験 11/15現地修繕]
→改善：中学生だけでなく、高校生も対象とし、分野も農業土木から農業全般に拡大した（中高校生の進学先を農業部門へ誘導）
- ・農業版カタリバ [高津中学校1年生 11月開催予定]
- ・ちびっこ農園の開催 [益田市農林改良青年会議、幼稚園]

○農家や関係機関と連携した、農林水産業への新規就農希望者に対する支援

- ・体験・研修支援（里の守り人づくり事業等） [R4年度4人/年]
- ・体験希望者の育成（ますだ食と農の基本計画推進事業）
認定農業者連絡協議会・農林大学校・翔陽高校の意見交換会による、市内高校生に対する就農への意識付け [7/21開催 40人]

[アンケート結果(抜粋)農業を仕事にしたいと思う気持ちに点数をつけると?]

	10点	30点	40点	50点	60点	70点	80点	90点	100点
実施前	1	1		1	1	3	3	6	1
実施後		1	1			1	6	5	3

○担い手の営農、農地集積に向けた生産基盤の整備

- ・施設園芸用ハウスの整備（産地生産基盤^ハワーアップ^ホ事業、ハウス等整備事業）
[ぶどうハウス8棟建設予定]

- ・営農可能な農地の維持、環境の保全

[多面的機能支払い交付金]

今年度（予定）	昨年度
対象面積 685ha	688ha
活動組織数 28組織	28組織
総事業費 38,142千円	35,239千円

[中山間地域等直接支払交付金]

今年度（予定）	昨年度
対象面積 491ha	494ha
活動組織数 71集落	71集落

	総事業費 65,837 千円 65,618 千円
成果	<p>産業支援センター</p> <p>○新入社員の定着を目的とした研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に参加された企業から引き続き新人の参加があった。現時点で定員の参加が予定されている。 ・2年目（昨年度参加者）との合同開催としたため、2年目へのフォローアップにもつながった。 <p>○企業の魅力・採用力向上を目的とした支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に開催された高校3年生を対象とした企業説明会を目標に、説明資料の作成や対応の改善支援を行った。まだ改善の余地はあるものの、当日は円滑に対応していた。 <p>農林水産課</p> <p>○安心安全な食の提供、食と農の理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への地元農産物及び美味しまね認証品の提供や、現地見学、ケーブルテレビやSNS、広報による発信等、非農家や子ども世代に対し、食と農の理解の増進を促すことで、益田市の農業を市民全体で支える土台作りにつながっている。 <p>○意欲のある担い手の育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔陽高校との連携による農業の魅力発信により、小中学生に対し益田の農への意識付けが行えたことに加え、高校生自身の成長にもつながり、農に関わる進路選択等、益田の農を支える未来の担い手づくりにつながっている。 ・農業に興味を持った若い世代や就農希望者が、体験・研修制度を活用することで、知識や技術の習得に専念することができ、スムーズな就農につながっている。 <p>○地域営農体制づくりと生産基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等を経て就農する農業者が、営農地を選定や営農計画を策定し、営農を開始するに当たり、施設や農地のマッチングの推進や営農可能な土地が整備されていることが、効果的な営農に繋がっている。
課題	<p>産業支援センター</p> <p>○新入社員の定着を目的とした研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加企業が固定化しないように、様々な企業から参加いただけるように研修内容等も改善を図るとともに、定員増加に向けた改善の検討が必要 <p>○企業の魅力・採用力向上を目的とした支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業とも圧倒的なマンパワー不足を痛感した ・個別支援は非常に有効であるが、支援側の負担が大きい。 ・今後の支援のあり方（事業者との役割分担）を検討が必要 <p>農林水産課</p> <p>○安心安全な食の提供、食と農の理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への提供量の増加に向けては、認定農業者連絡協議会との連携に

	<p>よる仕組の確立及び、協力農家の掘り起こし等</p> <p>○意欲のある担い手の育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験・研修希望者の増加により、関係機関と連携した、個々への細やかなサポートが困難な状況になっており、担い手支援スタッフの拡充が必要 <p>○地域営農体制づくりと生産基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農時の初期投資軽減のため、国県による新規就農者の施設整備（農業用ハウスや作業小屋等）事業に対する市義務負担分の予算措置
<p>今後の取組方針・計画</p>	<p>産業支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙年間スケジュールのとおり ・益田市版「ツナガル」事業と松江高専との連携事業に重点的に取り組む。 <p>農林水産課</p> <p>○安心安全な食の提供、食と農の理解の増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者や益田翔陽高校、関係機関との連携により、農業に対する理解の増進に向けた活動を広げ、市民に対し SNS やケーブルテレビ等での発信による周知に努める。 <p>○意欲のある担い手の育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者との連携による、幅広い世代に対する農の魅力発信等を行い、就農への意識を高める活動をするに加え、新規就農を目指す担い手への体験・研修等の継続的な支援を、関係機関と連携しながら行う。 <p>○地域営農体制づくりと生産基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備及び農地の維持管理の推進をするとともに、予算の検討を行う。
<p>特記事項</p>	<p>情報発信に寄与した取り組み</p> <p>○大学生インターンシップの受入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果として、新商品発表会及びますだのひと記事作成 <p>○安心安全な食の提供、食と農の理解の増進【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者や益田翔陽高校、関係機関との連携により、農業に対する理解の増進に向けた活動を広げ、市民に対し SNS やケーブルテレビ等での発信による周知に努める。